

[002]ポリモルフィア表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/7357536>

出版情報：ポリモルフィア. 2, 2017-03-31. Office for the Promotion of Gender Equality, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

巻頭言 「男女共同参画推進室から見た世界」

井上眞理

九州大学副理事（男女共同参画推進・学生支援担当）

男女共同参画推進室副室長

大学院農学研究院 教授



九州大学に男女共同参画推進室（以下、推進室）が設置され、今年度で干支が一回りしたところです。その間、文部科学省の補助事業『女性研究者支援モデル育成』事業に「世界へ羽ばたけ！ 女性研究者プログラム」（平成19～21年度）、『女性研究者養成システム改革加速』事業に「女性枠設定による教員採用・養成システム」（平成21～25年度）が採択されました。さらに、九州大学独自の取組により、3つの学内保育施設の開園や研究補助者雇用支援など女性研究者の環境整備も進み、女性教員数（比率）は平成19年度の189人（8.3%）から平成27年度

の330人（13.4%）へと大きく増加しました。

推進室では、現在、大学独自の経費に加え「研究大学強化促進事業（平成25～34年度）」、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業（平成27～32年度）」の2つの補助金を活用し、仕事と家庭の両立支援、あるいは女性研究者活躍推進のための多様な活動を展開しています。その主なものとして、1. 研究補助者雇用支援（シングルファザー支援も含む）、2. 出産・育児復帰者研究費支援、3. 育児シッター経費支援、4. 学内保育施設の運営、5. 本誌およびニュースレターの発行、6. 学生向けジェンダー研究助成事業です。また、「女性研究者活躍促進プロジェクト」として女性研究者および女子学生の顕彰制度を目的とした寄附窓口の設置も始めました。

今年度のトピックとして挙げられる「配偶者帯同雇用支援制度」は、WG立ち上げから1年半ほどかけて慎重に審議し、やっと発足にこぎつけることが出来ました。議論の過程で、福岡地区の近隣大学との連携も不可欠であることが認識され、各大学へお願いに参りました。そして、福岡女子大学の承認を得、また西部地区5大学連携（福岡大学、西南学院大学、中村学園大学、福岡歯科大学、本学）を目指し、数種類の採用タイプを想定した制度が出来上がりつつあります。この帯同雇用制度は、国内初の専任（承継）教員採用のための新制度として、本学の「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業」の切札となるものです。都会も山海も楽しめる福岡の地で、本学や近隣の大学で、国内外の優秀な研究者カップルが教育研究に活躍されることを大いに期待しています。並行して、若手研究者・異分野研究交流会も始動しました。

「帯同雇用制度」を含んだ多様性の推進を目指し、Londa Schiebinger教授（スタンフォード大学）を

招聘し、1年ほど前に学内でシンポジウムを開催しました。本制度の青写真を発表するにあたり、彼女の著書「Plant and Empire（植物と帝国）」を読みました。300年ほど前の時代のカリブ海とヨーロッパを舞台に、美しいマメ科植物を象徴とした、奴隷制と堕胎薬そして植物探索の史実に基づいた大作です。リンネの二名法で知られている分類法や学名も、ジェンダー学の視座から鋭く指摘され、学名に馴染んだ身としては新鮮な驚きでした。この機会がなければ、恐らく読むことはなかったでしょう。彼女に「この本から2つの映画ができますね。いずれもヒットすると思う」と言ったら、強く頷いていました。

年末には、タイ国の外務大臣や学長などを歴任されたKrasae Chanawongse 博士（医師）を招いて、「社会の変革期における多様な人材の活用」について、総長はじめ部局長列席のもと、トップセミナーを開催しました。様々な国の学生達からの質問にも熱く答えていただきました。「リーダーシップには、愛が必要である」が心に残っています。

さて、推進室を牽引された青木玲子理事は11月に公正取引委員会へ異動されました。今後は、経済学の専門を生かされて益々の活躍をお祈りしています。私は今年度いっぱい定年退職を迎えますが、こうして国内外の多くの人々と巡り遭うことができました。アカデミックフェスティバル（旧称アラムナイフェス）でお招きしたOGは、外資系製薬会社、宇宙事業、報道の各分野で活躍中の方々と、学生達へ強いインパクトを与えたようです。詳細は、推進室HPを是非ご覧ください。学生を指導されている先生方には、女子学生だけでなく男子学生にも、推進室イベントへの積極的な参加を折にふれ勧めただければ幸いです。たった1時間の出会いでも、学生達は目の色が変わることがあります。様々なロールモデルは、人生の岐路に立つ学生の可能性を上げてくれます。推進室の設置以来、特にこの2年半の機会を与えていただいたのは、本学の皆様のご協力と支えがあったからこそで、心から感謝しています。これから伊藤早苗理事の新体制のもと、平成29年の秋には、推進室は箱崎から伊都キャンパスの新中央図書館の一角に移動します。学生達を眼下に眺めることができる明るいオフィスを拠点として、九州大学の男女共同参画がさらに世界に羽ばたきますように。

2017年3月31日